加藤弘美さん 身障者の作文コンクールに入選 ドイツ旅行

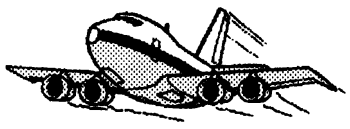
前回掲載しました、加藤弘美さんの帰国報告です。

ドイツ十日間の旅

私達のツアーについて

（九月十二日～九月二十一日）

作文入選の招待者が3名。聾唖の女性、全盲の男性、肢体不自由で車椅子の私、視覚障害者、リウマチや事故による車椅子障害者など数名とその家族、トラベルボランティア数名、トラベルデザイナーのおそどまさこさん、添乗員2名（手話通訳を含む）、盲導犬2頭、以上二十七名、2頭のツアーでした。耳、目、手足とお互い身体の違う部分に障害を持った者同志が助け合って楽しく旅をするという事が無料招待の私たちに課せられた目的でした。



ドイツの旅について

生まれて初めて日本を離れてみて「当たり前に思ってたことがそうではないんだ」ということに改めて気付きました。気候、言語、食事などが違う事は覚悟していましたが、些細な事の一つ一つ（例えばトイレの便座の高さや水洗レバー、照明器具のスイッチや明るさ）なども違い、慣れるまでは最初は戸惑いました。一日目、二日目はとにかく不安で何をするにも添乗員を引っ張って行ったのが、最後の方はホテルや空港では一人で買い物も出来るようになったのですから、自分でも驚いています。

そして問題のお天気ですが、この時期ドイツにしてはめずらしいといわれる雨で寒く、現地の人は厚手のコートやダウンジャケットをはおっていました。トレーナーしか持って行かなかった私はとうとうセーターを買ってそれを四日間ずっとカッパの下に着ていました。

ホテルの部屋はどこにも段差がなく、洗面、トイレ、シャワーなど自立できたのですが、一カ所カード式のエレベーターのホテルがあり、ルームキーのカードを差し込むと自分の部屋の階だけに止まるという方式で、防犯を考えた最新式のものらしいけどややこしくてとっても不便を感じました。十日間チャーターしたバスはリフトはもちろんトイレもついていて快適でした。

私たちのツアーは健常者、障害者もいるバリアフリーツアーなのでホテルもバスも設備の整っているものを選んでくれたのだとは思います。実際には歴史ある建物には階段、段差はあるし、道は石畳で傾斜も多いと決してハード面では障害者に使いやすくなっているとは言えません。でも祭りの会場や町中では車椅子に乗っている人や杖をついている人をたびたび見掛けましたし、レストランやホテルでは私たちにとても親切にしてくれました。もしかしたらこの国では車椅子や障害者が特にめずらしいものではないのかも・・・という印象を私は受けました。

主なコースはフランクフルトからハイデルベルク、バーデンバーデン、ウルム、を経由してミュンヘンに下るものだったのですが、何と言っても「体のいろんな感覚を使って実際に体験する」ということが多く盛り込まれているのが、このツアーの特色で、例えば

- ライン河、ドナウ河の水にさわる
- 国境を渡りオーストリアのザルツブルクで本場のお菓子、ザッハトルテという生クリームたっぷりのチョコレートケーキとウィンナーコーヒーを味わう
- カラカラ浴場（温水プールみたいなもの）に水着を着て入る
- ワイン祭りやビール祭りの会場に特設された移動遊園地で観覧車に乗る
- 色々なワインの味を飲み比べたり、ビール祭りでは大ジョッキーでビールを飲む・・等々

私は好奇心と冒険心からどれにもみんなトライして、ドイツ十日間を満喫してきました。三月から十月までは日本はサマータイムなので日本との時差は七時間、時差ボケはハワイ、アメリカ方面に行ったのよりは楽だという話しですが、やはり一週間ぐらいは寝ても寝ても眠かったです。そしてドイツ十日間をなんなく過ごせた私は意外と頑丈なんだと思ったけれど、しばらくは身体の緊張に悩まされました。でもこうして私が家族や友達と離れ、ひとりでドイツに行って来れたということはとても大きな自信につながったと思っています。

最後に「旅は最高のリハビリ」だと思いました。

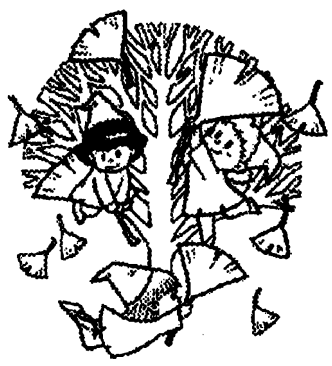
（和田ケ原在住）

みなさんの質問や投稿をお待ちしております。

☆受付けからのお願い

月初めには必ず保険証を受付けにお出し下さい。

診察券は毎回お持ち下さい。



11月・12月の休診日

（日曜・祭日
水曜・土曜・第一火曜午後）

12月29日（火）
～1月3日（日）
（年末年始）

1月4日（月）午後